



「自分らしさ」を大切に
する社会に

大江小学校 六年 松尾 錬太郎
れんたろう

みんなの幸せ願って

「瀬高小学校では、ズボンとスカート、好きな方の制服を選べます。」
そのことを聞いたとき、はじめは信じられませんでした。なぜなら、男はズボン、女はスカートを着るのがあたり前と決めつけていたし、これからはもうそうだと思っていたからです。
「女子もズボンを選べるんですか。」と友達がたずねると、
「そうです。男子もスカートを選べますよ。」
と先生が付け加えられました。その時、少しざわざわしましたが、みんな納得したようでした。それは、先日の授業でみんなの考えが少し変わったからだと思います。
十月に、「男らしさ、女らしさ」について学習しました。アンケートの結果から、クラスの半分以上の人が「男らしくしなさい。」「女らしくしなさい。」と言われた経験がありました。そのことについて、ぼくは、今まで特に意識して考えたことはありませんでした。でも、みんなが考える「男らしさ」「女らしさ」について出し合い、自

分にあてはまるものと考えてみると、「男らしさ」の「運動が好き」だけでなく、「女らしさ」の「小さい子が好き」などもあてはまりました。そして、クラスのほとんどの人が「男らしさ」「女らしさ」の両方に当てはまったのです。このことから、男らしさ、女らしさにこだわるのではなく、「自分らしさ」が大切なのだと考えました。
次に、長崎県の高校の制服についてのニュースを見ました。そこでは、女子高校生がスラックスをはいていました。理由は、防寒対策や性犯罪の防止のためだそうです。好みだけではなく、さまざまなメリットがあり、今までのあたり前が変わってきていることを実感しました。
来年度、瀬高小学校では、ズボンを着ていた女子やスカートを着ていた男子が登校してくるかもしれません。それがあたり前だし、「自分らしさ」だと思います。だから、からかっている人がいたら、すぐに注意したいです。
瀬高小学校のように、自分の

意思で好きな制服を着ることが出来るのは、とてもいい事だと思います。これからは、「自分らしさ」を出せる学校が少しずつ増えていけばいいと思います。そして、一人ひとりの「自分らしさ」を認め合える社会になるように、自分が今、できることに取り組んでいきたいです。
【先生のコメント】
「男らしく」や「女らしく」ではなく、「自分らしく」生きることの大切さにクラスみんなで話し合っただけだとところが素晴らしいと思います。今後、好みや制服など、自分らしさを表現しやすい社会になっていくでしょう。そんなとき、錬太郎さんのように友達の「自分らしさ」を受け入れ、正しい判断をして行動する力が必要になると考えます。多様性を認め合う社会の実現に向けて、自分に自信を持ち、進んで行動していきましょう。
※この作文は、松尾さんが五年生のときに書いたものです。

みやまに生きる ひと 人 vol.115

農業 久富 大介さん (39歳)

以前は電子系の会社に勤めていた久富大介さん。3年前に家業である農業を始めた。両親と3人で農業を営んでおり、黒毛和牛、なす、米などを生産している。
「会社勤めの頃に比べ、時間の調整ができるので、ゆとりを持って作業ができます。頑張った分だけ結果が出ることも自分に合っていると思います」
レベルアップを目指して

愛情込めて育てています
曾祖父の代から続いている牛の生産にも力を入れており、現在は15頭の黒毛和牛を飼っている。
「愛情を持って接してあげれば、自然と良い牛に育ってくれます」
その愛情と努力が実を結び、昨年の10月に、県のコンクールでA5ランクの評価を受けた。
農業のイメージを変えたい
一般的に農業は「きつい」「休みがない」などのイメージを持たれる傾向がある職業。「農業のイメージを変えるためにも、おしゃれできれいな格好で作業することと、仕事と休みのメリハリをつけることを心掛けています」
今後の目標は若い人を中心に農業の面白さを伝えること。



ひさどみ だいすけ
JA青年部部長だけでなく、消防団員としても活動しています。瀬高町高柳。
【みやま市にひとこと】農業に適した土地柄だと思います。農業の労働力不足をくい止めたいですね。
【好きな言葉】 為せば成る

「農業は働きやすい環境が整っています。そのことをもっとアピールして、若手の就農者を呼び込んでいきたいです」
JAの青年部部長も務めている久富さん。目標達成のため、みやまの農業を引っ張り、魅力を伝えていく。

男女共同参画推進事業
LGBT入門講座
2月8日、まいピア高田でLGBT入門講座が開催されました。福岡Jエンダー研究所の倉富史枝さんを講師に迎え、「LGBTってなに？」と題して講話をいただきました。参加者からは、「入門講座で理解しやすく、今後は自分の言葉で他の人に話をできると思いました」「全く知識がなかったため、これからは意識をかえて、多様性を認めていくようになります」などの感想が聞かれました。

▲倉富史枝さん

人権相談(無料)
〜ひとりで悩んでいませんか〜
【常設相談】
▼時間 午前8時30分〜午後5時15分 (土、日、祝日を除く)
▼場所 福岡法務局柳川支局
▼相談担当者 法務局職員または人権擁護委員
▼相談電話番号 0570-003-110
福岡法務局 柳川支局 (Tel. 72-2640)

みやま文芸
青門瀬高俳句会
瀧のぬめりを力に跳ねしむつ五郎 吉岡 木骨
裁ち合す絹音すべる春隣 池田 芳水
春泥の先に干場や朝の光 高巢 幸子
春光の木末まぶしむ大いちよう 阿部 和子
山笑う生後三日の大あくび 戸塚貴美代
初蝶の幼ナのごとき好奇心 橋本美恵子
春潮や橋のたもとの染物屋 河野 辰男
みやま短歌会
今日と言う日を生きたための吾が仕事 中村 智美
おでんの大根厚く切りおり 三栗野ミユキ
今日ひと日会いたる人となしたる事を 三栗野ミユキ
思いめぐらすひとり夜の寒し
元日も八十五回か雑煮餅 西村 嘉彦
一つにて足るわが身老いたり
北風のこの冷たさが嬉しいね 宮地幸一郎
心が子供の頃に還れる
今日もまた道に迷える夢見たり
我が人生に悔いはなければ 松尾 逸史